

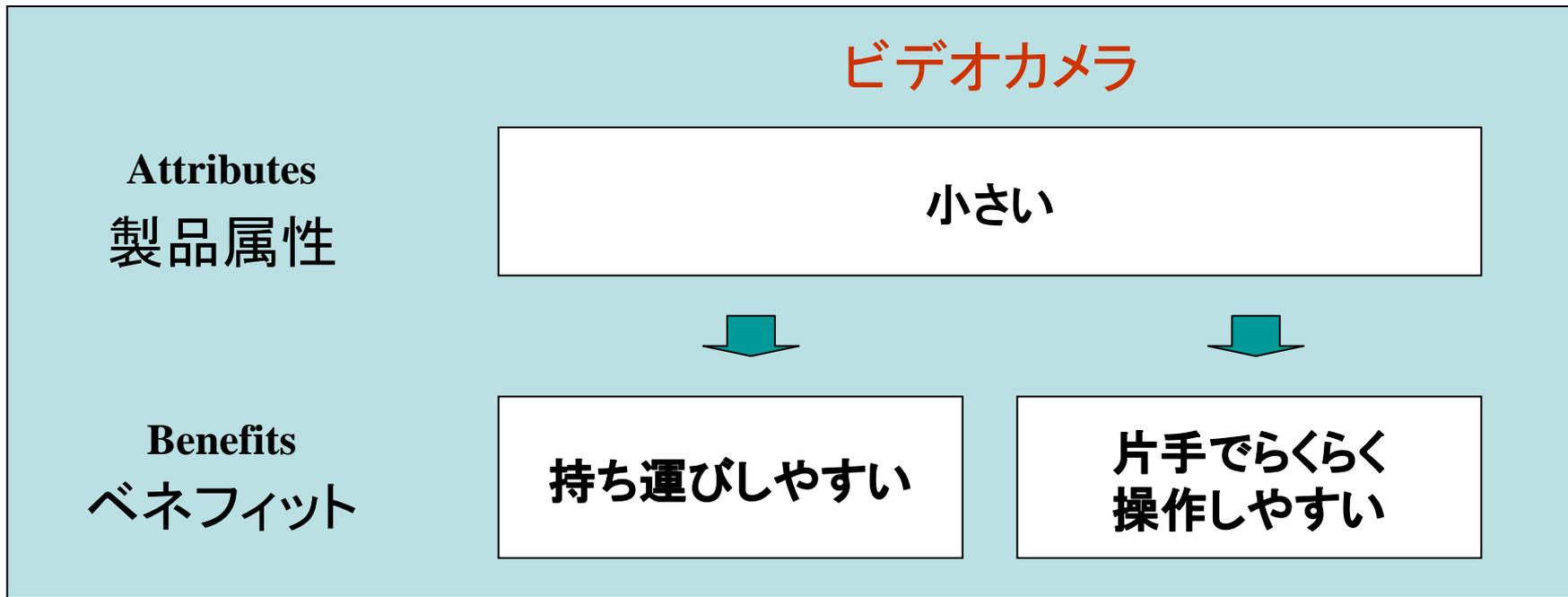
# Benefit ⑤ 小さいことのベネフィット

[小さい ⇒ 持ち運びしやすい] ハンデイクラム55



# (1) ベネフィットと製品属性

## ベネフィットと製品属性は違う



ひとつの製品属性から複数のベネフィットが生まれる。  
求められるベネフィットは  
ターゲットや使用シーンによって異なっている。

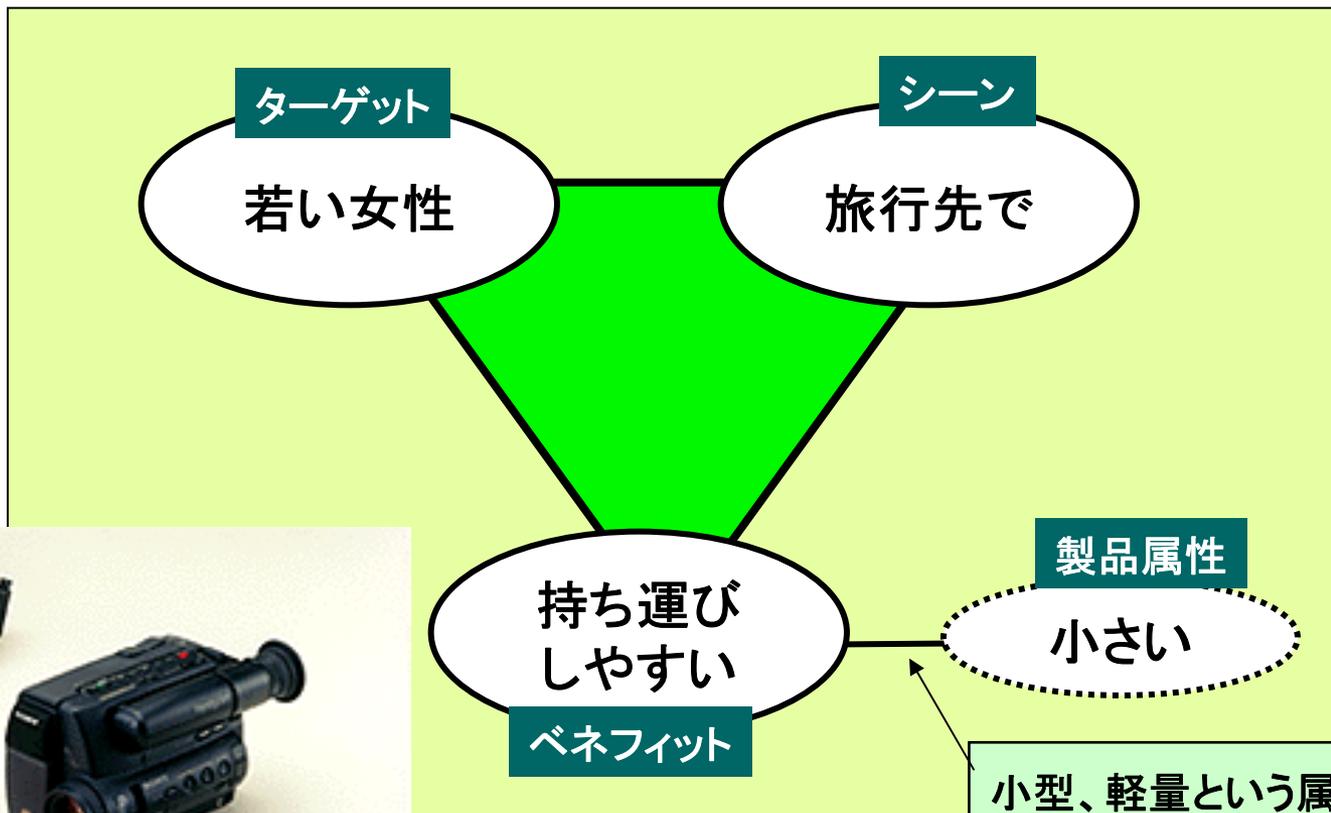
# 〔事例〕ビデオカメラの場合

ベネフィット 小型、軽量→ 持ち運びしやすい

ハンディカム55の場合（1989年6月発売）

CM: 浅野温子

## ベネフィットとシーンを表現したネーミング 『パスポートサイズ』



小型、軽量という属性が、ターゲット／用途を明確化することで「持ち運びしやすい」というベネフィットになる。

これまでの8ミリビデオにはない小型サイズを達成した、プロジェクト88の成果である“隠し玉”を市場に出すにあたり、何か需要を喚起する新しいコンセプトを打ち出さなくてはならない。そのことは、お客さまのアンケート結果からも感じとっていた。「やはり旅行だ。最近は旅先に持って行く人が多い。海外旅行に行く人もどんどん増える。ターゲットユーザーは、旅行好きの若い独身たちだ」

1989年5月31日、ついに隠し玉は発表の日を迎えた。コンパクトカメラ並みの大きさとはまではいかなかったが、「CCD-TR55」は見事に出っ張りがなくなり、録画・再生ビデオカメラとして**世界最小・最軽量(発表当時)**を実現した。質量はわずか**790グラム**。価格は16万円で6月21日発売と決定、夏商戦直前の発表であった。

発表当日から、ソニーとして初めての「予告テレビCM」が始まった。若い男女に当時人気絶大の女優、浅野温子が「CCD-TR55」をパスポートで隠して、「発売をお楽しみに」と告げるのである。

この予告CMは発売前に人気をあおり、予約が殺到した。予想をはるかに上回る勢いで「CCD-TR55」は売れ出した。通常の10倍用意した5万台は2日間で売り切れ、それから3か月間生産が追いつかない状態が続いた。



すでに、この8ミリVTRシリーズには、1985年に発売した「CCD-M8」以降、ハンディタイプのカムコーダーという意味で「ハンディカム」と名付けられていた。それに「パスポートサイズ」というシンプルなフレーズが加わり、「さあ、鞆にポンツと投げ込んで、旅に出ましょう、そして貴重な思い出を記録しましょう」という、時代に合ったコマーシャルが、見事にお客さまの心を捉えた。